

総務文教常任委員会活動レポート

開催日：令和5年4月18日(火)

開催場所：1・2号委員会室

総務部

1. 防災について

6月8日に開催する議員の「防災力アップ講座」の避難所運営ゲーム「Do はぐ」を防災担当に依頼し、研修内容について協議しました。

また、本年度に町で「中標津町地域防災リーダー養成講座」を2回、加えて現防災リーダーの知識向上を目指した「フォローアップ研修」を実施予定との報告がありました。

【主な質疑】

委員：防災訓練について2つの町内会から問い合わせがありますが、どのような状況ですか？

担当：令和5年中に行いたいと要望が出ていますので、町として積極的に協力していきます。

委員：町内会へNPO法人から防災に関するスマートフォン講座の打診がありましたが、内容や価格等は把握していますか？

担当：スマートフォンは有事の際に必要なツールであり、町でもキキボウやラインなどでお知らせしています。NPO法人の講習は承知していますが、価格については把握していませんでしたので確認します。

委員：防災リーダーの育成について、町内会の地域支援員や中高生への啓発方法はどのように考えていますか？

担当：中高生にも興味を持ってもらえるように、学校への周知などを考えていかなければと思います。地域支援員を始め広く周知する手法を検討します。

委員：災害発生時に地域支援員がどの段階で行動するのか、その際の情報伝達手段はどうするのか等、マニュアルのようなものは考えていますか？

担当：地域支援員の具体的な行動基準は、町民生活部の所管ですが、支援員がどの時点でどのように動くか、確認しなければならないと思います。

委員：昨年10月に続きJアラートが全道的に発令されました。再び登校時間でしたが、教育委員会からはどのように報告を受けていますか？

担当：昨年10月の発令時に危機管理マニュアルを見直し、今回はそれに則り対応出来ていました。今後、登下校中の周知方法などを検討します。

委員：吹雪など災害時の対応で公の関係機関の他に、事前に町民が助け合う行動が起こしやすいように町の連絡調整はできませんか？

担当：驚異的な吹雪などの時には、不要不急の外出をしないことが前提であり、2次・

3次災害などを考えると町民へ依頼を出すことは難しいと考えます。関係機関と対策についてさらに協議します。

2. ふるさと応援制度推進事業について

令和4年度の寄附の件数と金額等について、さらに令和5年度は中間事業者を見直し、ふるさと納税担当の地域おこし協力隊を設置する等新たな取り組みについて説明を受けました。

【主な質疑】

委員：寄附件数1位のジェラートが1,800件以上と突出して多いことは、どのように分析していますか？

担当：自社でもオンラインサイトを保有し全国的な知名度があること、1万円台の価格設定であることなどが要因であると考えています。

委員：寄附者が最初に目にする商品紹介が大切だと思います。地域おこし協力隊に、ライターや写真家などの専門性を持つ人材の採用は考えていますか？

担当：募集内容はそこまで限定していません。

委員：今年1月から3月まで、寄附額が前年比130%増加の要因をどのように捉えていますか？

担当：この時期の寄附者は所得に関係がなく、中標津町や返礼品のファンである方が多いと捉えています。ふるさと納税のメールマガジンや昨年開設したInstagramなども、相乗効果を上げていると考えます。

教育委員会

1. 中標津町文化財保存活用計画について

コロナ禍で延長となった当計画の策定期間は、令和2年4月1日から令和6年3月31日までの4ヶ年計画であり、「文化財保存活用地域計画」のパブリックコメントの実施に先立ち、5月27日に中標津町文化財保存活用地域計画フォーラムを開催することが報告されました。

2. 中標津町における部活の地域移行について

教員の働き方改革を踏まえた国の部活動改革であり、中標津町においては今後関係各団体との協議をしながら進める予定であることが報告され、委員からは部活動で培われる人格形成やコミュニケーション能力などは大切であり、関係機関で実態を見極めつつ地域移行を進めるよう意見がありました。